

アナリスト向け中期経営計画 2026 進捗説明会 議事録

日時：2025 年 11 月 12 日(水) 13:00～14:30 Web 配信

登壇者：代表取締役社長

井川 伸久

取締役副社長執行役員

前田 文男

常務執行役員

加工事業本部長

松本 之博

常務執行役員

食肉事業本部長

細谷 信博

○中期経営計画 2026 進捗説明会資料

11/12「ニッポンハムグループ中期経営計画 2026 進捗説明会」参照

<https://www.nipponham.co.jp/corporate/ir/library/briefing-session/pdf/20251112.pdf>

○質疑応答

Q1. 今中計における企業価値向上の取組みについて

A1. 今期の ROE は 6.6%を見込み、中計最終年度の来期は 8%を目指す。レバレッジ活用や自社株買いなど機動的に実施することで、達成可能な目標と考えている。構造改革や成長戦略を通じた収益力の強化と、継続的な資本政策で資本効率の向上に取り組む。減損などのリスクも最小限に抑えつつ、キャッシュフローの改善に努め、安定した株主還元を継続し、株主価値向上に努める。

Q2. 次期中計に向けた構造改革の方向性について

A2. 事業ポートフォリオの変革に向けて、各事業の将来の可能性を見極めた再編を検討する。現在進めている ERP 導入により、事業部毎に構築されていた基幹システムが統合されるため、現在の事業本部制に縛られることなく、柔軟な組織検討が可能になる。現在、18 のカテゴリーを選定し、企業価値向上に寄与するものを重点的に検討している。

Q3. 今後の食肉事業における構造改革について

A3. 需要の高い国産豚肉や鶏肉の生産基盤を強化し、安定供給を実現する。JA 全農との社外共創も行いつつ、ビジネスモデル変革を推し進め、国内の生産、流通において畜産インフラとしての持続可能な畜産ビジネスを確立する。

Q4. 今後の加工事業における成長戦略について

A4. 加工事業本部に海外の加工事業が組み込まれ、国内外が連携し、安定した収益基盤を作る。国内では、生産拠点の効率化と商品ミックスの改善を今後も進める。ブランド戦略はシャウエッセンの成功事例を他のブランドへ水平展開していく。海外では国内加工のノウハウや人財の投入で北米の買収工場を早期に立て直し、成長戦略の軸足となるよう注力する。

以上